

ごくもんなわて供養碑くようひ

で「ごくもんな

永祿12年、徳川家康に堀川城を落とされた後七百余人の人々がここで首を討たれました。その首を小川にそっている道にさらしたので「ごくもんなわて」と呼ばれ近くに供養碑を建てました。

近藤家

気賀関の取締りのため、近くに住む人たちが



気賀近藤家は元和五年（一六一九）から明治になるまで十二代にわたり、旗本として気賀の領主、及び関所の管理を勤めました。なかでも、代近藤用随は特産であった蕎麦を導入し

A large, dark, multi-masted sailing ship model is displayed in a museum hall. The ship has three masts and is positioned on a raised platform. The hall has a high ceiling with circular lights and a tiled floor.

赤いよどかけをしたかわいらしいお地藏さん。近くの竹藪は古くは刑場でしたので、その霊を慰めるために、ここへ六地藏（正徳二年・一七二二建立）を建てたのだそうです。

千日堂

曲まがり松まつ

江戸時代、街道を通る姫様行列や旅人を送り迎えるところだったといわれる曲り松。初代の松は昭和49年に枯れ、現在は二代目です。昭和の支那事変までは、出征兵士もここで見送られて戦地へ行きました。



曲り松

六地藏

刑部城

15分
1.2km
15分

氣賀

3分	3分
0.3km	0.3km
3分	3分

氣賀関

山園空間博物館
総合案内所

30分
2.1km
30分

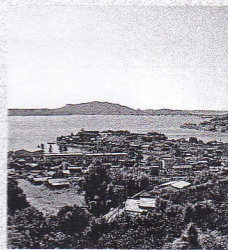
宮神

15分
1.0km
20分



模は敷地五百四十七坪(千八百五平方メートル)で、街道をはさんで北に本番所、南に向番所と二層の望楼があつて、大砲一門と多くの武具や甲冑類が常備してありました。

小引佐



でさえ、関所を通るときは、通行手形が必要でした。住民がたいへん不便でしたので、領主は、関所の裏道を作りました。それが犬くぐり道です。道の途中にむしろ一枚をたらし、立つて歩く人間は通れないが、犬がくぐるのはさしつかえないという法の抜け道でした。

ダイダラボッチの足跡

ここは、小引佐と呼ばれ、姫街道のなかで、最も景色のよい所として有名です。奥浜名湖と東名浜名湖橋がよく見えます。近くに霊験あらたかな広玉稲荷があります。

琵琶湖を掘った土を運んで富士山を作ったといわれる伝説の巨人ダイダラボッチの足跡。尉ヶ峰に腰をかけて弁当を食べたとき、弁当の中に入っていた小石を捨てたら礫島ができました。腰をかけたので尉ヶ峰が少し低くなったということです。

本尊は薬師如来、旅人から病氣にならないよう祈り続けられてきた仏様です。現在のお堂は天保六年(一八三五)に再建されたものです。このお堂は引佐峠を登り下りする旅人の休憩場所でした。誰にも気がねせずどっこいしよと休んで、一服吸ったり、弁当をひろげたりした光景が目につかぶようです。

引佐峠は本坂通において本坂峠につぐ難所であり、険しい山道になっていました。このため石畳が各所に形成され、通行の安全が図られました。道の両側には雑木が茂り、昼間でもやや暗いです。

薬師堂



石畳



ダイダラボッチの足跡

山村修理はここまで退いてきました。そして、あまりにも無惨に殺された人々の冥福を祈り、燃えさかる城に向かって手を合わせ、この地で切腹したといわれています。

小引佐

薬師堂

姫岩

姫岩



引佐細江

歴史を刻む風景を訪ねて。

史跡と自然の景観に恵まれた浜名湖北の貫道「姫街道」

引佐峠



象鳴き坂



六部様



三ヶ日町と細江町の境 昔、巨大な象は、新居 昔、行き倒れの人を葬

